

国際会議から 第7回アジア地域科学セミナー(7th ASRS)

本国際会議は、都市経済学を中心とした地域科学に関する会議です。2010年、中国の北京大学にて第1回目が開催されて以降、中国・日本・台湾・韓国各国の地域学会の持ち回りで開催されてきました。今回はその第7回目にあたり、台湾の地域学会主催の下、台北にある国立台湾大学(図1)にて開催されました。本会議では、基調講演2件と、全体で60件程度の研究報告がありました。アジア地域における労働の生産性と集積に関する実証分析や、最適な地域別のエネルギー課税に関する理論モデルの構築など、幅広い内容の議論がありました。筆者は東京における通勤鉄道混雑の負の効果を定量化する研究について報告しました(図2)。報告に際しては、外国の方にも日本の交通事情が伝わるように、写真や図を用いたスライドの作成を心がけました。また、ウェルカムディナーの際には、筆者の研究モデルの定式化について有意義な意見交換を行うことができました。



図2 研究報告を行う筆者

松本涼佑  
信号・情報技術研究部  
交通計画研究室  
研究員

開催都市の台北ではバイクの利用がとても盛んでした(図3)。通勤ラッシュ時には、バイクの運転手同士の身体が触れ合うほどの混雑が発生することから「バイクの滝」と呼ばれている場所があるそうです。東京と同じく国の中心地であっても、異なった形で通勤混雑の問題が生じていることを実感しました。



図1 会場の国立台湾大学  
(College of Management)



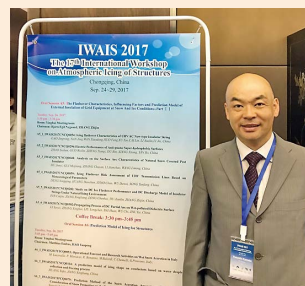
図3 夕方の台北市内の道路

正式名称：7th Asian Seminar in Regional Science  
開催国：台湾(台北)  
期間：2017/9/8-10  
主催：Chinese Regional Science Association-Taiwan  
開催頻度：年1回  
次回開催予定：2018年9月 韓国  
ホームページURL：<https://7thasrs.weebly.com/>

## 国際会議から 第17回構造物の大気着氷雪に関する国際ワークショップ

17th International Workshop on Atmospheric Icing of Structures (IWAIS) は、電力送電網、風力発電設備、航空機などへの着氷雪現象に対する観測、実験、シミュレーション、防水剤などの対策に関する最新の研究成果を発表し、意見交換を行うために2～3年ごとにヨーロッパ、アジア、北米の持ち回りで開催される国際ワークショップです。第17回目となる今回は中国、重慶市で開催されました。

今回のワークショップの発表論文は116件、参加者は150名以上と盛況でした。本会議での口頭発表は2会場で並行して16セッション開催（発表件数93件）され、ポスター発表は1セッション（発表件数23件）でした。筆者は着氷雪の予測手法のセッションにおいて、新幹線車両床下に成長する着雪の予測手法について発表しました。鉄道分野での着雪問題は唯一の発表であり、多くの参加者にとっ

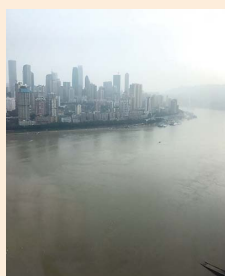


鎌田 慈  
防災技術研究部  
気象防災研究室  
主任研究員（上級）

て珍しいため、発表内容に限らず、着雪対策、除雪体制など、多岐にわたる質問がありました。また、着氷雪に対する構造物デザインセッションにおいて、国際会議での初座長を経験しました。今回の会議では、電線着雪のモデルや予測手法など鉄道分野でも応用できそうな最新の知見を得ることができ、実りあるものとなりました。



筆者の発表の様子



ホテルから見た長江

正式名称：The 17th International Workshop on Atmospheric Icing of Structures (IWAIS 2017)  
 開催国：中国（重慶市）  
 期間：2017/9/24-29  
 主催：重慶大学  
 開催頻度：2～3年に1回  
 次回開催予定：2020年10月頃 アメリカ合衆国  
 ホームページURL：<http://iwais.org/>